

室蘭工業大学-学報

NO.630



学位記授与式の様子（4ページに関連記事あり）

2022年4月号

目 次

◇ 学内の動き ◇

経営層のためのブランディング人事戦略セミナーを開催……………	1
学生による企業動画制作発表会を開催……………	2
エア・ウォーター株式会社と連携推進協議会を開催……………	3
令和3年度 学位記授与式を挙……………	4

◇ 情報・資料 ◇

地方創生研究開発センター「プレ共同研究（2回目）」の採択……………	6
THE 世界大学ランキング日本版2022で111～120位にランクイン！……………	7

◇ 外部資金 ◇

奨学寄附金の受入れ……………	8
----------------	---

◇ 人 事 ◇

人事異動……………	9
-----------	---

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催……………	15
------------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事……………	16
学外行事……………	16

学内の動き

経営層のためのブランディング 人事戦略セミナーを開催

令和4年2月22日に、「北海道若者活躍プロジェクト 室蘭拠点」における取組の一つとして室蘭市内の中小企業等を対象とした『経営層のためのブランディング人事戦略セミナー』をオンラインにて開催しました。

室蘭市内では、依然として人手不足感が継続しており、優秀な若者を獲得したくても採用に結び付かず苦勞されている企業が多くあります。若者に興味を持って「入社したい！」と思われる会社になるためには、求職者に企業の個性を伝え、共感してもらうことが重要です。今回、採用におけるブランディングを受講した企業は、今後専門家による個別コンサルティングも受診することになります。

セミナーでは、小樽商科大学の鈴木教授による「ブランディング入門」、北海道よろず支援拠点の島畑コーディネーターによる「人事戦略におけるブランディングの導入」、室蘭工業大学の丸山特任准教授による「円滑なマッチングに向けて」と題して、講演いただき、6社から9名の経営層及び人事担当者が参加しました。

参加者からは「学生にPRできる核となる部分をもっと磨きたい」等の感想があり、これから実施する、個別コンサルティングに期待している企業が多くありました。



学生による企業動画制作発表会を開催

令和4年2月28日に、北海道若者活躍プロジェクト室蘭拠点では、室蘭工業大学の学生による企業動画制作発表会をオンラインにて開催しました。

令和3年6月から、学生13名が3つのグループに分かれ、学生目線で企業の魅力を発信するための動画制作に取り組みました。学生は、映像制作に関する専門家による講義を受講し、企業との打合せ、現場取材を自ら行い、緊急事態宣言に伴う活動の中断がある中、令和4年2月に目標とする動画を完成させました。

今回の発表会は、学生から企業の担当者等7機関に対して、動画制作プロセスから得られた活動成果を披露するとともに、意見交換を通して今後の事業実施に向けた改善を図るために開催しました。

はじめに、完成した3分～5分の制作動画5点を鑑賞した後、各学生チームの代表者から「学生から見た担当企業の魅力」「動画制作における工夫、苦労した点」等のプレゼンがありました。

その後、若者の地元定着に向けた本活動の発展性や課題について意見交換を行いました。

学生からは、「(緊急事態宣言のために)全体スケジュールが後ろ倒しになり、チーム内のモチベーションを保つのが大変だった。」「授業やアルバイトのため、スケジュール調整が難しかった。」等の意見がありました。

今後は、学生がより集中して活動できるように、活動スケジュール等の改善を図り、本事業を有意義なものに改善していくこととしました。



学生が企業を直接取材、撮影する様子

エア・ウォーター株式会社と 連携推進協議会を開催しました

令和4年3月11日(金)本学本部棟大会議室において、エア・ウォーター株式会社との包括連携研究協力等に関する協定に基づく連携推進協議会を開催しました。

本協議会において、本協定の目的である北海道における農業・食品のイノベーションを創出する技術等の開発に資するために設定した共同研究について、今年度の最終報告及び来年度の取組みについて発表された後、来年度の新規テーマについて検討されました。

本学と同社は、平成30年5月に包括連携協力等に関する協定を締結し、本学の複数の研究室が取り組む全学を挙げた研究シーズと、同社が日々の事業展開から必要としている技術ニーズを組み合わせる「組織と組織」の総合力を集め、これにより学術的な知見を生み出すだけでなく、研究成果をいち早く事業化に結び付けるための包括的な産学連携を進めております。



会議の様子

令和3年度 学位記授与式を挙行

工学部第70回並びに大学院博士前期課程第56回及び大学院博士後期課程第30回学位記授与式を、令和4年3月23日(水)本学体育館において挙行了しました。今年度は学内関係者のみ参列のなか学位記授与が行われ、続いて空閑良壽学長から次のとおり告辞が述べられました。

告辞

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で3回に分けた学位記授与式となりました。学部卒業生、大学院修了生の皆様の、卒業・修了の晴れ舞台となる学位記授与式を心待ちにされていたご両親、ご家族を初め関係者の皆様にご出席いただくことは叶わず、心よりお詫び申し上げます。

さて本日、晴れて学部を卒業し学士(工学)の学位を得られた方は617名、大学院博士前期課程を修了し修士(工学)の学位を取得された方は216名、また大学院博士後期課程を修了し博士(工学)の学位を授与された方は12名です。そして卒業生・修了生の中には外国人留学生が53名おられます。これら845名の皆さんに、学位の取得並びに卒業・修了を心からお祝い申し上げます。また皆さんの入学から今日まで、修学を励まし支えてこられたご家族並びに関係者の方々に敬意とご祝辞を申し上げます。学位記授与に当たり、卒業生・修了生の皆さんに、私からの期待とメッセージを述べさせていただきます。

皆さんは2年を超える長期間にわたって、コロナ禍で学修に励まれてきました。本学においても、オンライン教育の強みも取り入れた形の対面とリモートのハイブリッド型の授業や研究室活動を続けてまいりました。理工系の大学では、やはりキャンパス内での対面での実験や実習や教育が最重要と考えていますが、コロナが落ち着いた後にも、大学においても、産業界や社会においてもDX(Digital Transformation)が進行し、新しい形での活動形態となると思われます。皆さんの対応力が問われることになるでしょう。学内の学生諸君の学修の進捗状況やもしかすると教員や職員のリモート環境やデジタル化、DXへの対応状況には、上手に対応できている方と苦労されている方との、2極化や格差が広がってきているという新たな課題も出てきている感があります。

このような状況の下、皆さんは大学という社会からプロテクトされた環境から、社会・産業界の先が見えにくい荒波のなかに旅立つこととなります。十分な覚悟と準備が整っているでしょうか。今回のコロナ禍では、繰り返しになりますが、これまで以上に対応力が問われます。皆さんは、この学生時代に2年以上に渡って新型コロナウイルス対策下の状況で、授業、卒業研究、修士論文、

博士論文の研究を進めてこられました。リモートでの授業や指導教員の先生とのディスカッション、そして研究室での実験やグループワークなど、これまでの大学での学びのスタイルとは異なる、新たな環境のなかで、大変な努力とこの度の制限がかかった状況での、卒業研究や大学院での研究課題に取り組んだ課題解決の経験は、皆さんにとって、きっと大変貴重な体験・宝となってかえってきます。答えがあるかどうかすらわからない問題・課題と立ち向かい、答えに近づく、チャレンジすることを大変な勇気を持って経験されたことと思います。今回の大変な時期に皆さんが、本学での卒業研究や大学院での研究に取り組んだ経験を是非とも、今後の活動に活かしてください。

さて私は本学の強みは、「確かな研究力をベースとした教育力」にあると強く信じています。主に研究の観点からは、THEの世界大学ランキングには、国立大学は57校がランクインし、本学は4年連続のランクイン(1201+位)となりました(2021.9発表)。さらには嬉しいことに、QSアジア大学ランキングにおいても、本学は初めて401~450位にランクインしました(2021.11発表)。この2つ世界の代表的大学ランキングにランクインしている大学は、道内では本学と北海道大学の2大学のみであり、本学教員の研究力が光っています。また本学卒業生の企業からの評価も高く、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査においては、北海道内の大学で第3位となっています(日経HR2022版)。まさに、エビデンスに基づいた「確かな研究力をベースとした教育力」の成果のひとつだと考えます。

ここで人生の先輩の一人として、私の経験を一つご紹介します。私は室蘭工大に当時の応用化学科に助教として着任して以来、25年半になります。既に、大学執行部の仕事の方が長くなり、その間、本学の様々な計画・施策の実施に携わってきました。この間、私は極力、EBPM(Evidence Based Policy Making)を心がけていました。大学運営において、確かなエビデンスが示せて、プラスになる成果や実現可能性が高い計画の立案と実施を心がけることで、教職員の皆さんが納得した協力を期待できることとなります。ただ、実際には、解決すべき課題が多すぎ、十分なエビデンスを用意できるとは限りません。その際には、少ないエビデンスから判断する決断力が必要となります。このときに、保守的に行くか積極的に行けるか、「攻めと守りのバランス感覚」が重要となります。

少し話がそれますが、私は将棋が好きで最近はずっかりAbemaTVなどの「観る将」になっています。谷川浩司十七世名人の藤井聡太論を読みますとAIの出現によ

学内の動き

り、従来、皆がお手本として信じていた定石は過去の物となり、以前にも増してAIに裏付けされた「攻めと守りのバランス感覚」が問われるようになったそうです。大学運営に『AI』は、まだなかなか使えませんので、「攻めと守りのバランス感覚」を磨くために、学長になっても日々、宿題と勉強ですね。個人的には藤井聡太君（竜王・5冠）の頭の中がどのようなになっているのか？将棋の盤面が頭の中で浮かんでいるのではなく、どうも7六歩、2四歩とかいわゆる記号、コードとして流れているように浮かんでいる？ようですが、たいへん興味深いですね。

さて、話を戻して、「攻めと守りのバランス感覚」をいかに磨くかです。実は私の場合、学生時代、とりわけ卒業論文や大学院での研究のために独学で学んだ、私の専門の化学とは直接関係がない、確率・統計学・情報の基礎がいまだに大変役に立っています。学生時代の経験を活かしたEBPMですね。人生100年時代です。皆さんも、本学での貴重な経験と身につけた専門知識を一つのベースとして、社会で活躍するために、さらに専門を深めたり、あるいは幅を広げ、新たな先端分野を学んだり、

社会・産業の状況に応じて学び続けて、これからの人生を有意義に過ごすための準備をしてほしいと思います。

最後になりますが、皆さんの周りにはたくさんの応援団、仲間がいます。

本学の同窓生は皆さんも加えると既に述べ約41,000人に達しており、産業界・社会で実績を残して、活躍している先輩たちが皆さんを温かい目で見守っています。この歴史ある卒業生の社会での活躍とそこからの応援、そして室蘭工業大学で共に学んだ皆さんの経験こそが、これからの皆さんの力となります。

室蘭工業大学は、これからも皆さんと共に、日本のそして世界の輝かしい未来を築くべく、教育と研究そして社会への貢献を大きな柱として歩みます。皆様のご健勝とこれからの輝かしい未来でのご活躍を祈念し、学長告辞といたします。

令和4年3月23日

室蘭工業大学学長 空閑良壽



地方創生研究開発センター「プレ共同研究（2回目）」の採択

令和3年度地方創生研究開発センタープレ共同研究（2回目）公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額 (千円)
しくみ解明系領域 准教授 渡 邊 真 也	苫小牧栗林運輸(株)	500
合 計 (1 件)		500

THE 世界大学ランキング日本版2022で 111～120位にランクイン！

3月24日、THE世界大学ランキング日本版2022が発表されました。

イギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education）に評価されたTimes Higher Education Japan University Rankings 2022の1校として、本学は、総合111～120位にランクインしました。

本学は其中でも「どれだけ教育への期待が実現されているか」を示す『教育充実度』のカテゴリで、93位となっています。このカテゴリでは、大学生・大学院生への学生調査結果と高校教員の評判調査結果から、どれだけ教育への期待が実現されているかが表されております。「室蘭工業大学の確かな研究力をベースとした教育力で地域に貢献できる理工系人材の育成」が大学生・大学院生、高等学校教員のみならず期待され、信頼された結果の表れだと嬉しく思います。

室蘭工業大学はこれからも工業大学としての教員の確かな研究力と延べ40,000余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。

* 「THE 世界大学ランキング日本版」は、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）とベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野によって大学の「教育力」を測定し、今回は273大学がランキング対象となりました。

外部資金

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額(千円)
新東工業株式会社	工学研究助成	2,000
株式会社北建	工学研究助成	1,500
株式会社北建	工学研究助成	1,000
株式会社アイエイアイ	工学研究助成	1,000
アンテナ技研株式会社	工学研究助成	2,000
公益財団法人電気通信普及財団	工学研究助成	1,500
株式会社クリーンアップ	工学研究助成	200
NJT銅管株式会社	工学研究助成	550
公益財団法人岩谷直治記念財団	工学研究助成	2,000
個人・団体 寄附者(2件) ※室蘭工業大学古本募金	図書館資料・ 設備の充実のため	2
合 計(10件)		11,752

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年3月31日	〈定年退職〉	相 津 佳 永	大学院工学研究科教授 (もの創造系領域)
		武 井 正 弘	学務課副課長
令和4年3月31日	〈任期満了〉	岸 上 順 一	社会連携統括本部(クリエイティブコラボレーションセンター) 特任教授
令和4年3月31日	〈辞 職〉	須 藤 秀 紹	大学院工学研究科教授 (しくみ解明系領域)
		山 路 奈保子	大学院工学研究科教授 (ひと文化系領域) 兼務: 国際交流センター
		内 海 佐和子	大学院工学研究科准教授 (もの創造系領域)
		高 原 まどか	大学院工学研究科助教 (しくみ解明系領域)
		武 川 梢	入試戦略課国際交流室係長 (留学生係)
		三田村 はるか	総務広報課主任(地域連携係)
令和4年3月30日	〈辞 職〉(転出)	内 藤 雷 太	副学長・事務局長
令和4年3月31日	福島大学理事・事務局長	鈴 木 剛	総務広報課長
	福島工業高等専門学校事務部長	荒 谷 正 樹	施設課長
	旭川医科大学施設課長	千日坂 和 彦	入試戦略課長
	帯広畜産大学事務部入試課長	蟹 口 宏 幸	研究協力課長
	北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課長		

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
	〈採 用〉(転入)		
令和4年4月1日	大学院工学研究科教授（ひと文化系領域） 兼務：保健管理センター	岩 田 実	富山大学附属病院寄附講座教員 (客員教授)
	大学院工学研究科准教授（もの創造系領域）	立 山 耕 平	立命館大学理工学部助教
	大学院工学研究科特任教授（もの創造系領域） 兼務：キャリア・サポート・センター	相 津 佳 永	大学院工学研究科教授 (もの創造系領域)
	副学長・事務局長	大 川 鉄 也	群馬大学総務部長
	施設課長	押 田 聡	旭川医科大学施設課長
	入試戦略課長	相 内 征 也	苫小牧工業高等専門学校 学生課長
	事務局付係員	黒 川 琴 音	
	事務局付係員	境 亜麗玖	
	事務局付係員	玉 根 宏 大	
	事務局付係員	中 谷 果 帆	
	事務局付係員	福 澤 颯 希	
	事務局付係員	村 田 佳 乃	
	入試戦略課再雇用職員（入学試験係）	武 井 正 弘	学務課副課長
	〈昇 任〉		
令和4年4月1日	大学院工学研究科准教授（もの創造系領域）	大 石 義 彦	大学院工学研究科助教 (もの創造系領域)
	経営企画課課長	柴 田 潤	経営企画課副課長
	研究協力課長 兼務命：入試戦略課国際交流室長	伊 藤 光 春	入試戦略課国際交流室長
	総務広報課副課長	植 田 昌 樹	総務広報課係長（人事企画係）
	施設課副課長 兼務命：施設課係長（施設企画係）	山 本 和 幸	施設課係長（施設企画係 (マネジメント担当))
	総務広報課係長（労務管理係）	渡 邊 唯	総務広報課主任（労務管理係）
	総務広報課主任（人事企画係）	一 家 ひとみ	総務広報課係員（人事企画係）
	学務課主任（教務企画係）	福 山 友以佳	学務課係員（教務企画係）
	学務課主任（学部教務係）	大 金 慎二郎	学務課係員（学部教務係）
	〈配置換〉		
令和4年4月1日	総務広報課係長（社会連携係）	伊 藤 陽 平	総務広報課係長（地域連携係）
	総務広報課係長（人事企画係）	青 木 要	総務広報課係長（労務管理係）

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年4月1日	入試戦略課国際交流室係長（留学生係）	永利 卓	総務広報課係長（総務広報係）
	総務広報課主任（総務広報係）	白川部 直人	経営企画課主任（経営企画係）
	施設課主任（施設企画係）	成谷 道生	入試戦略課主任（入学試験係）
	<任用更新>		
令和4年4月1日		加藤 誠	（クロスアポイントメント） 株式会社アトリエブंक専務取締役 大学院工学研究科教授 （もの創造系領域）
		那須 守	大学院工学研究科特任教授 （もの創造系領域） 兼務：社会連携統括本部
		樋口 健	大学院工学研究科特任教授 （東京事務所）
令和4年4月1日	<命>		
	保健管理センター所長（任期：R5.3.31）	岩田 実	
	国際交流センター長（任期：R5.3.31）	木幡 行宏	
令和4年4月1日	キャリア・サポート・センター長 （任期：R5.3.31）	相津 佳永	
	<兼務>		
	総務広報課係長（秘書係） 兼務命：総務広報課係長（総務広報係）	宮下 慎也	総務広報課係長（秘書係）
	経営企画課主任（評価分析係） 兼務命：入試戦略課主任（入学試験係） （期間：令和4年6月30日まで）	千葉 ななえ	経営企画課主任（評価分析係）
令和4年4月1日	経営企画課主任（評価分析係） 兼務命：入試戦略課国際交流室主任（国際企画係） （期間：令和4年6月30日まで）	田嶋 学	経営企画課主任（評価分析係）
	監査室係員（監査係） 兼務命：入試戦略課国際交流室係員（国際企画係） （期間：令和4年6月30日まで）	小林 誠	監査室係員（監査係）
令和4年4月1日	<兼務免>		
令和4年4月1日	事務局次長	郷路 健二	事務局次長 兼務命：経営企画課長

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年4月1日	北海道大学総務企画部人事課係長 (職員採用試験事務室担当)	南 圭 奈	施設課係長 (施設企画係 (企画担当))
令和4年3月31日	〈雇用期間満了〉	三 村 政 雄 TRAN VINH HA 谷 口 美 緒 上 野 香 織 BAAR STEFAN 伊 藤 直 美 山 本 さやか 中 山 梨 花 坂 井 久美子 長谷川 綾 香 清 野 晶 子	非常勤産業医 大学院工学研究科博士研究員 大学院工学研究科学術研究員 大学院工学研究科学術研究員 大学院工学研究科博士研究員 国際交流センター日本語学習 支援員 国際交流センター日本語学習 支援員 大学院工学研究科事務補佐員 社会連携統括本部 (クリエイ ティブコラボレーションセン ター) 事務補佐員 経理課事務補佐員 総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
令和4年3月31日	〈辞 職〉	中 道 正 栄 山 田 仁 子	大学院工学研究科事務補佐員 保健管理センター技術補佐員 (心理職)
令和4年4月1日	〈採 用〉 大学院工学研究科博士研究員 大学院工学研究科博士研究員 大学院工学研究科博士研究員 大学院工学研究科博士研究員 大学院工学研究科学術研究員 保健管理センターカウンセラー 保健管理センターカウンセラー	秋 岡 翔 太 ZHAO YAFEI TRAN VINH HA BAAR STEFAN 上 野 香 織 村 形 明日希 杉 浦 郁 子	

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年4月8日	保健管理センターカウンセラー	十 二 法 歌	
	航空宇宙機システム研究センター事務補佐員	小野寺 麻姫子	
	経理課技術補佐員（運転手）	小 丸 憲 之	
	経理課事務補佐員	荒 井 千 秋	
	入試戦略課国際交流室事務補佐員	小 林 麦 子	
	国際交流センター日本語学習支援員	伊 藤 直 美	
	国際交流センター日本語学習支援員	山 本 さやか	
令和4年4月1日	〈雇用期間更新〉		
		LEE YOUNGJUN	大学院工学研究科博士研究員
		武 内 琢 哉	広報室特定専門職員
		加 藤 優 里	大学院工学研究科技術補佐員
		篠 原 未 来	大学院工学研究科技術補佐員
		佐々木 恵梨菜	大学院工学研究科技術補佐員
		竹 岡 紀 子	大学院工学研究科事務補佐員
		木 幡 侑 香	大学院工学研究科事務補佐員
		柴 田 亜砂美	大学院工学研究科事務補佐員
		工 藤 ゆ き	大学院工学研究科事務補佐員
		宗 成 美	大学院工学研究科事務補佐員
		松 原 みづほ	大学院工学研究科事務補佐員
		高 橋 美 香	地方創生研究開発センター 事務補佐員
		齊 藤 昭 子	希土類材料研究センター 事務補佐員
		佐 孝 まゆり	クリエイティブコラボレーショ ンセンター事務補佐員
		片 岸 祥 帆	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		金 井 達 哉	ものづくり基盤センター 技術補佐員
	加 藤 裕 也	ものづくり基盤センター 技術補佐員	
	鷲 見 恵莉奈	ものづくり基盤センター 技術補佐員	

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
		石 田 達 也	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		遠 藤 友 人	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		板 倉 詩 桜	ものづくり基盤センター 技術補佐員
		曾野部 梨 紗	地域教育・連携センター 事務補佐員
		加 藤 由 実	総務広報課事務補佐員
		山 形 香 里	総務広報課事務補佐員
		藤 平 昌 代	総務広報課事務補佐員
		池 野 佳 奈	総務広報課事務補佐員
		渡 邊 華 枝	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		佐々木 沙 季	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
		丁 雪 花	学務課事務補佐員
		後 藤 むつみ	学務課事務補佐員
		道 林 志 織	学務課事務補佐員
		嘉 門 由華子	施設課事務補佐員
		福 原 由 莉	施設課事務補佐員
		永 田 鈴 奈	入試戦略課事務補佐員

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 2月24日～3月25日 >

開催日時 令和4年3月1日(火)
会議名 第30回役員会

開催日時 令和4年3月2日(水)
会議名 第11回教育研究評議会

開催日時 令和4年3月2日(水)
会議名 第31回役員会

開催日時 令和4年3月3日(木)
会議名 第7回教授会

開催日時 令和4年3月3日(木)
会議名 第2回大学院工学研究科委員会博士前期課程分科会

開催日時 令和4年3月3日(木)
会議名 第2回大学院工学研究科委員会博士後期課程分科会

開催日時 令和4年3月8日(火)
会議名 第9回企画戦略会議

開催日時 令和4年3月10日(木)
会議名 第8回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会議

開催日時 令和4年3月15日(火)
会議名 第32回役員会

開催日時 令和4年3月15日(火)
会議名 第8回教授会

開催日時 令和4年3月16日(水)
会議名 第6回経営協議会

開催日時 令和4年3月16日(水)
会議名 第33回役員会

開催日時 令和4年3月17日(木)
会議名 第12回教育研究評議会

開催日時 令和4年3月17日(木)
会議名 第34回役員会

開催日時 令和4年3月22日(火)
会議名 第9回学長特命連絡会A

開催日時 令和4年3月22日(火)
会議名 第9回学長特命連絡会B

学内行事

- 2月25日(金) 一般入試(前期日程)(室蘭、札幌、仙台、東京、名古屋)
- 3月1日(火) 辞令交付
- 3月1日(火) 修士対象合同企業説明会(オンライン)
- 3月1日(火) 2022年度4月入学大学院博士前期課程入試(第2次募集)(一般・外国人留学生(国内出願)):2日)
- 3月4日(金) 第1回クリエイティブコラボレーションセンターワークショップ
- 3月6日(日) 令和4年度理工学部一般選抜前期日程合格発表
- 3月8日(火) HES活動に関わる講演会「産業廃棄物の分別排出による環境負荷低減」(オンライン)
- 3月8日(火) アカデミックハラスメント防止講演会(オンライン:22日まで)
- 3月9日(水) 発生源システム・財務会計システムの更新に伴う操作研修会(職員向け)
- 3月11日(金) 2022年度4月大学院博士後期課程一般入試・社会人(第2次募集)入試合格発表
- 3月11日(金) 北海道若者活躍プロジェクト室蘭拠点会議
- 3月14日(月) HES定期審査
- 3月15日(火) 遠隔授業フォーラム(拡大版)講演「授業目的から考えるICT活用デザイン」
- 3月18日(金) 室蘭工業大学と三笠市との包括連携に係るイメージラベルデザインコンペ最終発表
- 3月21日(月) 理工学部一般選抜後期日程合格発表
- 3月21日(月) 大学院工学研究科博士前期課程一般入試及び外国人留学生入試合格発表
- 3月23日(水) 令和3年度学位記授与式

学外行事

- 2月25日(金) 外国人留学生の入国に係る説明会(オンライン)
- 2月28日(月) TEAM「ゼロカーボンいぶり」キックオフセミナー(室蘭市)
- 3月1日(火) 北海道4高専オンライン合同大学説明会(オンライン)
- 3月4日(金) 国立大学協会令和3年度第4回通常総会(オンライン)
- 3月4日(金) 2021年度大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)総会(オンライン)
- 3月7日(月) 同窓会代議員選任・解任委員会(室蘭市)
- 3月8日(火) 令和3年度第4回教養教育連携実施運営委員会(オンライン)
- 3月9日(水) スーパー連携大学コンソーシアムUNIC運営委員会(オンライン)
- 3月10日(木) 文部科学省「留学生円滑入国スキーム」に関する説明会(オンライン)
- 3月11日(金) エア・ウォーター株式会社との令和3年度包括連携研究協力協定に基づく連携推進協議会(室蘭市)
- 3月11日(金) カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション全体シンポジウム(オンライン)
- 3月14日(月) Google Cloudで実現する大学業務改革とDX(オンライン)
- 3月15日(火) 北海道ダイバーシティ研究環境推進会議(オンライン)
- 3月16日(水) 室蘭経済同友会例会(室蘭市)
- 3月17日(木) 職域追加接種の完了登録に伴う留意事項等企業向け説明会(オンライン)
- 3月17日(木) 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」(応用基礎レベル)説明会(オンライン)
- 3月21日(月) 北海道プライムバイオコミュニティが描く未来～一次生産システムのロボスタ化を目指して～(札幌市)
- 3月24日(木) 月島機械株式会社と室蘭工業大学との包括協力協定2021期最終報告会(オンライン)
- 3月24日(木) 大学改革カンファレンス2022(オンライン)

編集後記

◆ 教職員の皆様からの随想、提言等の御寄稿、あるいは学報への御意見、御希望、また、日頃感じていることなど多数お寄せくださるようお待ちしております。

(リンク先：総務広報課総務広報係、E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308